
ある日の風紀委員と新入生の与太話

皆本隆弘

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ある日の風紀委員と新入生の与太話

【Nコード】

N7169L

【作者名】

皆本隆弘

【あらすじ】

ある学校の入学式後で出会った二人の生徒がかわす^が与太話。幼馴染の二人は出会った瞬間、ちょっとした会話をする^がことになるのだ^が……

（前書き）

久しぶりなので練習するつもりで書きました。執筆時間は3時間？
今回は会話文のみで送る形式をとってみました。直前に読んだ作品
の影響が出てなきやいいけど…思いついたことを即興で描いた作品
です。

「あたしには早急にやらなければならないことがあるわ」

「いきなり何言い出すんですかこの先輩」

「ちょっと、この学校の風紀を一時乱れるようなことをしてみたいの。それでちょっと協力者を探しているんだけど」

「今日来た新入生に対して向けるべきでない話題と眼差しに見えま
すね」

「手伝うわよね〜手伝ってよね〜後輩ですものね家が隣ですものね
一蓮托生さあ手伝え！」

「ついでに言えば、拒否権すらないみたいですが、これがこの学校
での普通ですか？ この学校の風紀は一体どうなっているんですか
？」

「あー不良だらけとか、昼間から酒タバコとか喧嘩とか、そんな風
紀の乱れみたいなものは一切ないわよ。ここはこの街で5つしかな
い普通科進学校、常にみんな勤勉に励んでいるわ」

「そうですよね。パンフレット通りの健全な」

「何よりあたしがこの学校の風紀委員なんだから！」

「僕の安寧な高校生活はこれでおしまいのようですね・・・人生終
わりましたーたった15年で」

「入学当日から真っ白になるな！　つか遠い目をしながらロープで何わっかを作っているの?!」

「とりあえず風紀委員の行う凶行には巻き込まないでください」

「風紀を乱すつてことでひょっとして犯罪起こすとか勘違いしている？」

殺人事件なんか起こす気はないわよ？

通り魔とか爆弾テロとか放火とか重犯罪は起こす気はないわ今のところ」

「・・・軽犯罪は？」

「ちよつとふれるかも？」

「万引きや動物虐待からだんだんエスカレートして最終的に重犯罪になるのですねわかります」

「そこまで信用ないか、ああん？」

「この15年の付き合いで分かったのは、ある程度信頼はできるけど、やることにすることは全く信用できないということです」

「ちよつとおもてでろ」

「座った目で睨まないでください。とりあえず何をするのか話は聞きますから、間接極めようと構えるのも止めてください」

「今まであんたが話をそらしたのでしょうに。まあいいわ。

これからあたしがやるうとすることは最終的にこの学校の風紀を正すことになる。だからこそ、一時的に風紀が乱れる恐れがあるという荒治療よ」

「そういうことであるなら最初からそう言ってください。てっきり犯罪すれなことをして気に食わない連中をたたきつぶすつもりなのかと思ったじゃないですか」

「よくわかつているわね。まあ風紀員の活動の一環として、この学校のあたしが気に入らない部活動をちよつとたたき潰そうと考えていたのよ。それでちよつと手伝ってもらおうと」

「・・・先輩、直前に言ったことと、というか一文の中でも全く話がかみ合わないですが、どのあたりに風紀を正す要素があるんですか？」

「あたしの邪魔をするものいなくなれば、あたし達の風紀活動を気兼ねなくおこなえて最終的にこの学校の風紀は改善させられるわ」

「先輩の頭の中の辞書では風紀は独裁と同じなのですか。というか風紀の意味判って言ってますか？」

「『日常生活のうえで守るべき道徳上の規律。特に、男女の交際についての規律や節度。』

「が乱れる」「をとり締まる」などと使う『でしょ？』

「その辞書まる写しの解説通りなら先輩のしようとしていることは大きく違反して、というかぶち壊しているのですが・・・いや待ってください。先輩、男女の交際についての規律に言及したことはい

やな予感がするのですが、まさか恋人がいないことによる八つ当たりとかじゃないですよね？」

「そんなことないよ。あたしはただリア充シネとおもっているだけ。カップルは殲滅ダヨ」

「焦点合わせず棒読みでおっそろしいこと言わんで下さい。というか先輩一人が風紀委員としてそんな勝手なことできるわけないでしょう？」

他のメンバーからひんしゆくを貰うだけでしょう」

「大丈夫、風紀委員長も副委員長もみんな同じ気持ちだから『カッブル撲滅週間』の設立には」

「駄目だ、この学校の風紀委員達。早くなんとかしないと・・・」

・・・つづく？

（後書き）

以前プロットだけ作った作品の世界観をベースに作っています。これをベースに短編作品をちまちまだ出していこうと思っています。

まずは感覚を取り戻さないと長編なんて書けそうにないですからね・

・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7169/>

ある日の風紀委員と新入生の与太話

2010年10月17日04時04分発行